

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 427 号	氏名	小原 悠
学位審査委員	主 査	原 宜興	
	副 査	池田 通	
	副 査	筑波 隆幸	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は病的な骨破壊を想定し、炎症性サイトカインの1つ TNF-<math>\alpha</math>によって引き起こされる破骨細胞形成に対し、急性リウマチ性関節炎、急性炎症や重度の歯周病において局所で発現している IFN-<math>\gamma</math>の影響を検討している。この影響およびメカニズムを解明することは、歯周病による病的骨吸収のみならず病的関節炎、リウマチなどの新しい治療薬、治療法への開発にもつながる研究として目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>マウスの骨髄細胞および M-CSF 存在下で分化させた骨髄マクロファージを使用している。TRAP・TUNEL・Heachest・免疫染色の他、MTT assay・real time RT-PCR・FACS など様々な手法で検討がなされ、<i>in vivo</i> における確認も行っており、その手法は適切である。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>IFN-<math>\gamma</math>は TNF-<math>\alpha</math>誘導性の破骨細胞形成に対し Nfatc1 の発現を減少させることで直接働くこと、Fas/FasL シグナルを介してアポトーシスを誘導することで間接的に抑制作用を示すことがわかった。また、この抑制作用は <i>in vivo</i> においても確認された。本研究で得られた知見は、今後の病的骨破壊を伴う病態の解明に大いに貢献することが期待される。</p> <p>以上のように本研究で得られた知見が、今後、歯学の進歩に貢献するものと評価し、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			